

Strix 12 : 219-221 (1993)

## 北海道砂崎岬におけるシロハヤブサの越冬生態

岩田真知<sup>1</sup>

シロハヤブサ *Falco rusticolus* は数少ない冬鳥として渡来し、北海道においては道東や道北、サロベツ原野などで観察されている。本報の調査地である北海道南部渡島半島においては、最近まで確実なシロハヤブサの渡来記録はなかったが、1988年3月にはじめて単独の個体を確認。続いて1992年2月～3月にも1羽のシロハヤブサが確認された(岩田 未発表)。本報では1992年11月から1993年2月にかけて渡来、越冬したつがいと思われる2羽のシロハヤブサの概要をここに報告する。

シロハヤブサのつがいの越冬地となった砂崎岬(40°08' N, 140°43' E)は渡島半島の東部に位置し噴火湾に面している。海岸線は砂浜が約2 km 続き、その中央に灯台が設置されている。ここはかつてはキタヨシとノシバが交じった湿地であったが、砂鉄採取、草地改良により乾燥化がすすんでいる(吉田 1984; 図1)。海岸と国道278号線にはさまれた牧場と原野には小さな沼が点在し、冬期にはオジロワシやコチョウゲンボウなどが観察されている。

シロハヤブサのつがいは1992年11月22日にはじめて確認され、全身白色に近い大型の雌と思われる個体と、背面が暗色で小型の雄と思われる個体で(図2)、暗色の個体は1993年2月13日、白色の個体は同年3月12日まで確認された。



図1. 調査地・砂崎岬と越冬した2羽のシロハヤブサ。

1993年12月19日受理

1. 〒049-23 北海道茅部郡森町常盤町4-4

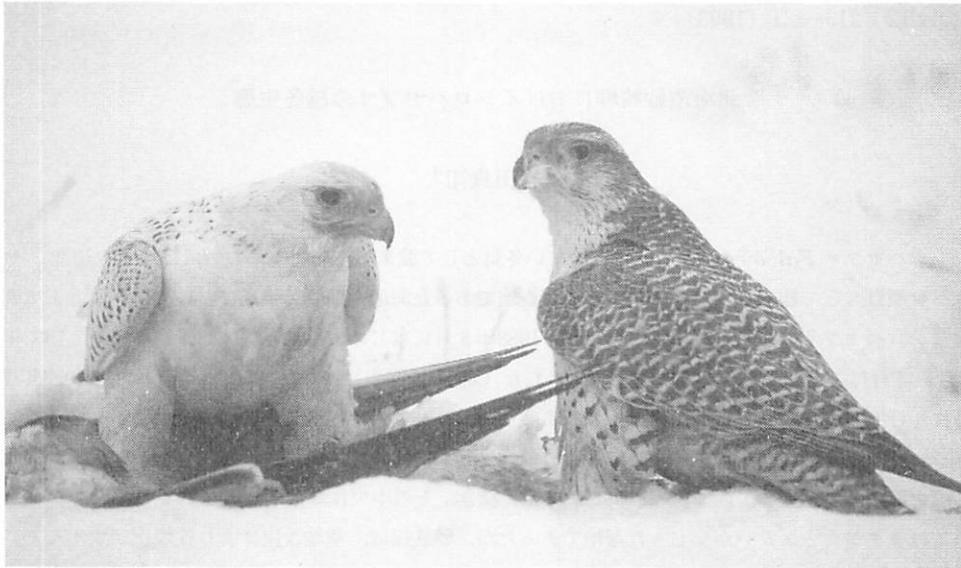


図2. 採食中のシロハヤブサ. 左が雌, 右が雄と思われる個体.

シロハヤブサは、おもに単独で海岸部を中心に生息しており、居住地、都市部にも出現する (Lobkov 1988). 今回、砂崎岬に渡来したシロハヤブサも、市街地に近接した牧場、水産加工団地周辺がおもな行動圏であった.

狩猟行動は夜明け直後から日没直前まで、時間、天候に関係なく行なわれた. 捕食対象は岬の上空を飛ぶオオセグロカモメなどの大型カモメが中心だった. つがいのシロハヤブサは灯台とそれに連絡する10数本の電柱上から飛び立ち、共同で狩りをすることが多かったが、風の強い日は草地から直接飛び立ち、狩りを行なった. 暗色の個体が先に飛び立ち、後を白色の個体が追うことが多く、最初は低空を気づかれないように移動し、それから急上昇して獲物の上空に接近、急降下に移り、爪でけり落とし、捕食した. 失敗した場合はさらに攻撃をくり返した. 狩りの成功率はあまり高くなく、2時間に6回、狩猟行動を行なってすべて不成功のこともあった. また、時には遊んでいるように思えることもあった. 観察された範囲での捕食対象はオオセグロカモメ、セグロカモメの幼鳥、成鳥17羽、その他エトロフウミスズメ2羽、クロガモ1羽なども記録された. この岬にはユキホオジロ、ツメナガホオジロの小群も飛来していたが、これらの小型の鳥の捕食は確認されなかった.

シロハヤブサは1800gまでの獲物を運搬可能といわれているが (Cramp 1980)、オオセグロカモメなど大型のカモメを捕獲した場合は、ただちにその場で内臓などを摂食し、オオワシや野犬、人間が接近した際には運搬、移動を試みたが、わずかに引きずって移動しただけであった. このつがいは両方同時、もしくは交互に摂食し (図2)、休憩をはさみながら胸部が脹らむまで一日中、摂食を続けた. 残った部分は翌日以降もやってきて、骨と羽毛になるまで摂食を続けた. ただ、この地域はトビやハシトガラスが多く、これらの鳥も残滓を食することがあった. また、オジロワシやオオワシが獲物を横取りすることもあった. その際にはめったに鳴かない (Cramp 1980) とされるシロハヤブサが「ケー、ケー」という警戒の声を発し、威嚇攻撃をくり返したが、獲物を防衛することはできなかった. ウミスズメなど小型の獲物については2羽が同時に摂食することはなく、片方が近づくと獲物を持っている方が逃げるといった行動がみられた. 求愛給餌はみられなかった.

今後も、この岬にシロハヤブサの渡来が続けば、越冬生態や不明なことの多い、この鳥の分布、識

別などいろいろな点で貴重な成果が得られると思われる。

#### 謝 辞

本稿をまとめるにあたり、帯広畜産大学野生動物管理学研究室柳川久氏に大変お世話になった。ここに深甚なる謝意を表する。

#### 引用文献

- Cramp, S. (ed.). 1980. Handbook of the Bird of Europe, Middle East, and North Africa Vol. 2. pp. 350-361. Oxford Univ. Press, Oxford.
- Lobkov, E. G. 1988. カムチャツカで繁殖する鳥類 I. 極東鳥類研究会, 帯広.
- 吉田省三. 1984. 北海道探鳥ガイド. 北海道新聞社, 札幌.

#### Observations on a pair of Gyrfalcons *Falco rusticolus* wintering at Cape Sunazaki in Hokkaido, Japan

Matomo Iwata<sup>1</sup>

I observed a pair of Gyrfalcons *Falco rusticolus* from Nov. 1992 to Feb. 1993 at Cape Sunzaki in Hokkaido. They were first sighted on 22 Nov. 1992. They cooperatively hunted, and fed mainly on Slaty-backed Gulls *Larus schistisagus* and others (Herring Gull *Larus argentatus*, Crested Auklets *Aethia cristatella*, and Common Scoters *Melanitta nigra*).

1. 4-4 Tokiwa-cho, Mori-machi, Kayabe-gun, Hokkaido